

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は昭和51年の創立以来、生徒一人ひとりを大切にしている学校、地域に愛され、信頼される学校をめざしてきた。その伝統を受け継ぎながら、さらに生徒のニーズや保護者の期待に応える学校となることをめざす。具体的には、次の三つに重点を置く。

【1】生徒の自己実現を最大限に支援する学校 【2】すべての生徒が安全・安心に生活できる学校 【3】地域としっかり連携して生徒を育てる学校  
人権教育をベースとした系統的なキャリア教育を行うとともに、きめ細かな学習指導、生徒の安全・安心につながる生徒指導を教職員が一丸となって行い、生徒や保護者に「野崎高校に入学してよかった」と心から言ってもらえるような学校づくりを行う。

## 2 中期的目標

## 1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり

## (1) 生徒の「学ぼうとする力」を育成する

ア ICT機器を活用した取組みを推進し、オンライン等を活用した学習支援を実施できるように進めるとともに、授業形態や授業方法を工夫改善することを通して、本校生徒にとっての「わかる授業」「できる授業」を行う。

イ 新型コロナウイルス感染症への不安や経済状況の悪化等による家庭環境の変化等を含む様々な支援の必要な生徒に対してSC・SSW・居場所スタッフ等外部人材と連携しながら生徒の自己実現を支援する。本校生徒の様々な学習活動の場として、またメンタル面から支援する居場所カフェの場として、図書室の整備・充実を図る

ウ 校内における教員相互の授業見学、初任者研修・10年経験者研修等による公開授業・研究協議への参加や、大阪府教育センターや大東市内中学校等で実施される研修・研究授業等に参加することで、教員の「授業力」を向上させる。

エ 新学習指導要領に対応した新たなカリキュラム編成・実施を行う。

※令和5年度までに、生徒授業アンケートの①「授業内容に興味・関心を持つことができた(興味関心)」と②「授業を受けて知識や技能が身に付いた(知識技能)」について、回答ポイント(満点4.0)を3.25以上にする(①H30:3.00, R1:3.10, R2:3.11 ②H30:3.02, R1:3.12, R2:3.14)。

※令和5年度までに、生徒向け学校教育自己診断の①「授業は分かりやすい」と②「自分は授業にまじめに取り組んでいる」について、肯定的回答率を①70%以上・②80%以上を維持する(①H30:58.0%, R1:62.2%, R2:68.4% ②H30:71.4%, R1:73.5%, R2:82.6%)。

## (2) 生徒一人ひとりの進路目標を実現する

ア 生徒の社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成できる、3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践に取り組む。

イ 地元企業・各種企業団体と協力した職場見学・インターンシップ、大学・短大・専門・専修・各種学校等と協力した学校見学や体験入学、各種業者による体験セミナー等に参加する機会を増やすことで、生徒の進路意識の向上を図る。

※毎年度において、学校斡旋による就職内定率100%と、理由のない進路未決定者0名をめざす。

※令和5年度までに、生徒・保護者向け学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」について、肯定的回答率をともに80%以上にする(生徒 H30:72.2%, R1:73.3%, R2:74.5% 保護者 H30:79.2%, R1:76.8%, R2:73.7%)。

## 2 すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくり

(1) 新型コロナウイルス感染症への不安や経済状況の悪化等による家庭環境の変化等を含む様々な支援の必要な生徒に対して、きめこまやかな教育相談・支援教育の体制を構築することにより、困り感を抱える生徒の早期発見と早期対応につなげることで、問題事象の発生や不登校、中途退学につながることを防ぐ。

(2) 家庭や地域と連携した遅刻指導、服装・頭髪指導、挨拶・マナー指導等を通して、生徒の規範意識や自律心を育成する。

(3) 人権教育や総合的な探究の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神を育成する。

(4) HR活動、生徒会活動、部活動、学校行事等において生徒が主体的に参加・行動する取組みを進めることで、生徒の自尊感情や自立心を育成する。

(5) 校内防災体制の整備充実と、卒業後を見越した生徒の健康増進を図る取組みを進める。

※令和5年度までに、生徒向け学校教育自己診断の①「マナーや校訓を守っている」②「頭髪・服装指導は適切である」③「遅刻指導・授業遅刻指導は適切である」について、肯定的回答率を①90%以上・②70%以上・③80%以上にする。

(①H30:84.0%, R1:85.9%, R2:92.5% ②H30:66.4%, R1:64.5%, R2:63.9% ③H30:72.1%, R1:73.7%, R3:73.6%)

※令和5年度までに、年間の登校遅刻延べ回数を8500回未満にする(H30:8623回, R1:10249回, R2:11171回)。

※令和5年度までに、生徒向け学校教育自己診断「相談できる教員は担任以外にもいる」の肯定的回答率を80%以上にする。

(H30:70.4%, R1:74.8%, R2:77.5%)

※令和5年度までに、生徒向け学校教育自己診断の①「学校はいじめ・差別に対して適切に指導している」②「人権や命の大切さについての教育が行なわれている」について、肯定的回答率を①85%以上・②90%以上にする(①H30:76.4%, R1:78.2%, R2:79.2% ②H30:83.6%, R1:88.1%, R2:85.0%)。

※令和5年度までに、生徒の部活動の加入率を40%以上にする(H30:32.0%, R1:32.0%, R2:30.5%)。

※令和5年度までに、生徒向け学校教育自己診断「学校へ行くことが楽しい」の肯定的回答率を75%以上にする。

(H30:66.2%, R1:70.0%, R2:69.3%)

※令和5年度までに、1・2年生の進級率を現在よりそれぞれ5%向上させる。

(1年生 H30:90.4%, R1:84.5%, R2:84.1% 2年生 H30:90.1%, R1:86.4%, R2:92.0%)。

## 3 地域としっかり連携して生徒を育てる学校づくり

(1) 従来から実施されている各種地域連携行事に、本校生徒・教職員が今後も継続的に参加できる校内体制を整備する。

(2) 本校が中心となった地域連携行事を企画・実施する。

ア 近隣の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校の児童生徒と本校生徒が交流する機会(行事、部活動、出前授業等)を設ける。

イ 地元の保育所、小・中学校、高等学校、大学等の教職員と本校教職員が交流する機会(合同研修等)を設ける。

(3) 本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信する広報体制を確立する。

ア 本校ウェブページの学校ブログ等を定期的に更新することで、最新の情報を中学生、保護者、地域住民等に伝える。

イ 中学校への広報活動を充実させることで、本校志願者の確保に努める。

## 4 教職員の働き方改革推進

(1) すべての教職員が、担当業務についての必要性と効率化を常に意識する習慣を持つことを全校的に推進する。

※令和5年度までに、教員一人平均の月当たり時間外勤務を25時間以内にする(H30:30時間, R1:27時間, R2:27時間)。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【全般的に】</b></p> <p>① 生徒向け (24 項目)、②保護者向け (21 項目) の診断結果を肯定的回答率で分類すると、70%以上の項目は生徒 21/23 項目で昨年度比3項目増、保護者 18/21 項目で昨年度比3項目増。</p> <p>② 50%以下については、昨年度、生徒2項目、保護者1項目であったが、今年度は生徒・保護者ともに無くなった。</p> <p>以上のことから、本校の教育活動が一定の支持を得ていると考えられる。</p> <p>以下では、肯定的回答率が50%台の項目と、前年より大きく変化のあった項目を中心に考察する。</p> <p>○肯定的回答率が50%台の生徒向け項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「校舎内の清掃が行き届いている」の肯定的回答が、昨年度から+10.7ポイント(以降Pと表記)と大きく改善できた。(R2 41.0%→51.7%)。しかし、数値的にもまだ低いことから、次年度も引き続き清掃指導の充実を図る。</li> <li>・「ホームページ・ブログなどで学校の情報をみている」の肯定的回答率も+5.6P増加しているが(R2 49.3%→R3 54.9%)、生徒により一層定着させる必要がある。</li> </ul> <p>○特徴的な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「頭髪・服装指導は適切である」の項目は生徒回答分に関しては-4.6Pに対し、保護者回答分は+12.9Pと逆の結果になった。保護者の理解は得ているが、生徒は不満を持っている傾向が見受けられる。引き続き粘り強く指導を進めていきたい。</li> </ul> <p>○前年度より大きく上がっている項目</p> <p><b>【生徒】</b>「授業はわかりやすい+10.3%」「校舎内の清掃が行き届いている +10.7P」「ホームページ・ブログなどで学校の情報をみている +5.6P」「野崎高校は一人ひとりが大切にされている +5.9P」「LSを通して自分の成長を感じることができた+7.1P」</p> <p><b>【保護者】</b>「子どもは「授業はわかりやすい」と話している+5.7P」「頭髪・服装指導は適切である +12.9P」「きめ細やかな進路指導がされている +12.8P」「担任は親身になって相談や悩みに応じてくれる +5.7P」「学校はいじめ・差別に対して、適切に指導している +8.3P」「子どもは体育大会や球技大会を楽しみにしている +6.5P」「学校の情報は、ホームページ、保護者向け郵送やブログでわかりやすく提供されている +6.8P」「保護者懇談や学校行事に積極的に参加している +11.4P」</p> <p>以上の項目が前年度より大きく上昇している。授業に関しては校内での公開授業・研究協議の実施やICT機器の活用、授業形態や授業方法を工夫し改善してきた成果と考える。加えて、ホームページやブログの充実により保護者に正確に情報が伝わった結果であると考えられる。</p> <p>○前年度より大きく下がっている項目</p> <p><b>【保護者】</b>「子どもは学校に行くことを楽しみにしている-9.3P」「子どもは、マナーや校訓を守っている -6.7P」</p> <p>1年生関連で大きく下がっている。コロナの影響を受け思っていたような高校生活ができなかったことによる不満が大きいようだ。まだまだ、コロナ禍における制約は大きいですが、各種行事やクラブ活動の充実に向けて取り組んでいきたい。</p>	<p>(第1回) 令和3年7月27日</p> <p>○令和3年度 学校経営計画について多くの項目について具体的な取り組みが示されている。高校3年間の学びで、生徒が後悔のない自己実現ができるように学校全体で取り組んでいることが伝わってくる。</p> <p>○学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」の保護者の肯定的回答率がここ3年間低下しているのはどうしてなのか。</p> <p>○コロナ禍にあつて、学校行事や部活動等入学した生徒の思い出作りが十分でない状況がある。なかなか難しい状況であるが、先生方の相違・工夫により達成できるよう尽力を願う。</p> <p>○学校教育自己診断の「頭髪・服装指導は適切である」の肯定的回答率の低下及び年間の登校遅刻延べ回数が増加傾向にあるのが気になる。教職員一丸となって、課題解決を図ってほしい。</p> <p>○入学者数の定員割れは、大きな課題である。チャレンジ野崎や学校説明会の状況を分析し、中学校や地域の方の声も参考にしながら、来年度に生かしてもらいたい。</p> <p>(第2回) 令和3年12月27日</p> <p>○授業は教科指導の面と生徒指導の面があると思うが、リモート授業では生徒指導の面がとても薄くなってしまっていると感じているが、野崎高校はリモート授業についてどうなっているか。</p> <p>○学校は登校してこそ値打ちがある。また、学校は生徒にとってベストな居場所である必要がある。野崎高校は、そのための運営は適切にされている。</p> <p>○里山ボランティアについて。参加している生徒らはやりがいを感じている。景色の感動することもある。</p> <p>○人推委の取り組みはとても良い。逆境からの成功例は生徒が勇気づく。</p> <p>○部落問題学習(同和教育)について。野崎高校から異動した先生方も、他校で同和教育についての取り組みを続けてくれている。</p> <p>○野崎高校の卒業生の職場における評価が高い。</p> <p>○今の生徒はインターネットでよく調べている。そのため、学校のPRはウェブをもっと活用する。</p> <p>(第3回) 令和4年2月28日</p> <p>令和3年度の学校評価について</p> <p>○遅刻については、様々な事情をかかえた生徒に対して、コミュニケーションを十分にとって指導していくことが必要。野崎高校の先生方はきめ細かく指導されており、高く評価できる。</p> <p>○「授業のわかりやすさ」「人権教育」「いじめ」「差別」「清掃」については、評価が高く維持できているのは、御校の特色であるが素晴らしいことと思う。</p> <p>○進路未定者に対するバックアップが大切だと思います。</p> <p>○「相談できる教員は担任以外にもいる」の肯定率は十分高いと思う。担任以外に相談できない生徒もいます。生徒の一番身近な存在の担任に相談しやすい環境づくりが大切だと思う。そのためには担任も含めて全教職員の教育相談のスキルを上げることが重要ではないか。</p> <p>○「学校教育自己診断」全般を通じて、令和2年度との比較において、2年生のポイントが1・3年生と比べて下降している。消極的傾向がみられるのはなぜなのか?</p> <p>○生徒指導部について</p> <p>生徒一人ひとりに呼びかける指導を実施した。このことで、交通マナーが飛躍したことは評価できる。</p> <p>○学校は野崎高校での三年間を生徒一人ひとりが卒業してからの人生の土台となるまたは、社会に適応できるような教育をしていると感じた。</p> <p>こどもは、野崎高校での三年間で将来の目標も見つけている。これは学校や先生方の生徒をやる気にさせる雰囲気づくりや取り組みによるものだと思う。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり	<p>(1) 生徒の「学ぼうとする力」を育成する。</p> <p>ア 本校生徒にとつての「わかる授業」「できる授業」を行う。</p> <p>イ 図書室の整備・充実。</p> <p>ウ 教員の授業力を向上させる。</p> <p>エ 新カリキュラムへの対応。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの進路目標を実現する。</p> <p>ア 3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践。</p> <p>イ 生徒の進路意識の向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教員研修の実施や教材等の情報共有により、オンライン教材作成のサポートを行い、ICT機器を活用したオンライン授業形態や授業方法の工夫改善をはかる。</p> <p>イ・様々な支援を必要とする生徒の学習活動の場として居場所カフェを開催し、その運営の場として、図書室の整備・充実を図る。</p> <p>ウ・校内での公開授業・研究協議の実施。</p> <p>・校外での研修・研究授業等への参加。</p> <p>エ・新カリキュラムに対応した新たなコース制の充実を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア・3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践に取り組む。</p> <p>イ・地元企業・各種企業団体と協力した職場見学・インターンシップを実施する。</p> <p>・大学・短大・専門・専修・各種学校等と協力した学校見学や体験入学の実施。</p> <p>・各種業者による体験セミナー等に参加する機会を増やす。</p> <p>・生徒が各種検定試験(①漢検②英検③ワープロ検定④数検⑤時事検定⑥情報処理技能)における資格取得をめざすことで進路意識の向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒授業アンケートで①「興味関心」②「知識技能」の回答ポイントを前年度より0.05向上させる。 [①3.11・②3.14、満点は4.0]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の①「授業は分かりやすい」②「授業にまじめに取り組んでいる」について、①肯定的回答率を前年度より1%向上させる。②肯定的回答率を維持する。 [①68.4%・②82.6%]</p> <p>イ・居場所カフェの維持と図書室設備の充実を図る。</p> <p>ウ・校内で年間5回の公開授業・研究協議を実施。 [10回実施]</p> <p>・年間で5名の教員が校外の研修・研究授業等へ参加。[6名が参加]</p> <p>エ・カリキュラム委員会を毎月開催し、新カリキュラムを年度内に編成する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校斡旋による就職内定率100%、理由なき進路未決定者0名をめざす[100%と0名]。</p> <p>・生徒・保護者向け学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」について、肯定的回答率を前年度より2%向上させる。 [生徒74.5%・保護者73.7%]</p> <p>イ・各種進路行事(①大阪産業大学見学会②進路フェスタ③職業体験セミナー)への参加生徒数を15名より増やす。[中止]</p> <p>・各種検定試験の受験者と合格者を昨年度より増やす。 [合格者数/受験者数は、①漢検 未実施、②英検 1/4、③数検 1/7、④ワープロ 17/35、⑤時事検定 0/1(校内未実施)⑥情報処理未実施]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・① 3.23 (+0.12P) ② 3.27 (+0.13P) 目標達成(◎)</p> <p>・① 78.6%(+10.2P) ② 82.8%(+0.2P) 目標達成(◎)</p> <p>イ・図書室を生徒の学習活動の場として、授業や居場所カフェで積極的に活用した結果、利用者数や貸し出し冊数が倍増した。また、コロナ禍にも関わらず、居場所カフェを昨年同等の年間19回実施した。(◎)</p> <p>ウ・年間15回の公開授業・5回の研究協議を実施(◎)</p> <p>・年間11名の教員が校外での研修・研究授業等へ参加(◎)</p> <p>エ・カリキュラム委員会を7回開催し、昨年度からのカリキュラム案を一部改正した。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校斡旋就職内定率100%(◎)</p> <p>・生徒78.2%(+3.7P) 保護者82.8%(+9.1P) 達成(◎)</p> <p>イ・各種進路行事 ①②③未実施(一)</p> <p>・各種検定試験 ① 漢検 23/413、②英検 4/10 ③数検 5/16、④ワープロ 11/24、⑤時事検定 0/0(未実施) ⑥情報処理 4/5 今年度はコロナ禍にもかかわらず、進路意識を向上させ、受験者数を増加できた。(◎)</p>

府立野崎高等学校

<p>2 すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくり</p>	<p>(1) 教育相談・支援教育の体制を構築する。</p> <p>(2) 生徒の規範意識や自律心を育成する。</p> <p>(3) 他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神を育成する。</p> <p>(4) 生徒の自尊感情や自立心を育成する。</p> <p>(5) 校内防災体制の整備充実と、卒業後を見越した生徒の健康増進を図る取り組みを進める。</p>	<p>(1) ア・本校生徒の現状に合った教育相談・支援教育の体制を構築する。 イ・本校生徒の家庭環境、発達特性等の理解を深めるための教職員研修を実施する。</p> <p>(2) ア・生徒へ注意喚起するとともに学校近隣や校門前の自転車交通指導を行う。教員による校外巡回、交通安全指導、校門立番等を実施する。 イ・遅刻指導、服装・頭髪指導、挨拶運動を実施する。</p> <p>(3) ア・スマホの使い方に関する講演やスマホサミットの参加を通じて、人権にかかわる生徒の問題発言やSNSにおける行動に対する指導を充実させる。 イ・喫緊の人権課題に対応する教職員研修を実施。</p> <p>(4) ア・HR、生徒会、部活動、学校行事等で、生徒が主体的に参加・行動する取組みを進める。 イ・総合的な探究(学習)の時間で行う「コミュニケーションワーク」に関する教員の理解を深め定着を図る。</p> <p>(5) ア・教職員実働防災訓練を企画、実施する。 ・生徒避難訓練の内容を見直して実施する。 イ・地域の保健所と連携したヘルスアッププロジェクトを実施する。</p>	<p>(1) ア・教育相談委員会、就学対策委員会の運営をより充実させる。 ・居場所カフェを維持、継続させる ・生徒向け学校教育自己診断「相談できる教員は担任以外にもいる」の肯定的回答率を前年度より1%向上させる。[77.5%] イ・年間2回の教職員研修を実施。</p> <p>(2) ア・生徒指導部中心に定期的な校外巡回、交通安全指導を実施。(年間6回) イ・年間の遅刻延べ回数を10,000回未満にする[11,171回]。 ・生徒向け学校教育自己診断の①「マナー・校訓遵守」②「頭髪・服装指導は適切」③「遅刻指導・授業遅刻は適切」について、①は肯定的回答率を維持、②③は肯定的回答率を前年度より2%向上させる。 [①92.5%・②63.9%・③73.6%] イ・年間2回の研修を実施。</p> <p>(3) ア・生徒向け学校教育自己診断の①「いじめ・差別に対して適切に指導」②「人権や命の大切の教育を実施」について、肯定的回答率を前年度より2%向上させる。 [①79.2%・②85.0%] イ・年間2回の研修を実施。</p> <p>(4) ア・生徒会やHR等で生徒の主体的な取組みを増やし、より多くの生徒が活躍できるように工夫する。 イ・各学年の総合的な探究(学習)の時間で、コミュニケーションワークを年間3回実施する。以上のことにより生徒向け学校教育自己診断の「学校に行くことが楽しい」について、肯定的回答率を前年度より2%向上させる。 [69.3%] イ・保健所と連携した年間1回のプロジェクトの実施。</p> <p>(5) ア・地域と連携し、生徒避難訓練と合同した実働防災訓練を年1回実施。 イ・保健所と連携した年間1回のプロジェクトの実施。</p>	<p>(1) ア・教育相談委員会9回(前年度11回)、就学対策委員会11回(前年度20回)開催し、次年度に向けてより効率的体制を検討中。(○) ・1(1)イに同じ ・各種委員会や居場所の運営を工夫し、肯定的回答率をほぼ前年度並みを維持できた。(77.4%-0.1P)(○) イ・年間2回の研修実施(○)</p> <p>(2) ア・今年6回実施(○) イ・10721回で昨年より450回減少したが、コロナによる影響もあり、1万回未満にできなかったため未達成(△) ① 92.0%(-0.5P) ② 59.2%(-4.7P) ③ 71.1%(-2.5P)で未達成(△) 保護者の肯定的回答率は向上したが生徒の率は低下した。</p> <p>(3) ア・さまざまな人権問題における被差別当事者の方々の講演会等を実施、結果は ① 84.0%(+4.8P) ② 88.6%(+3.6P) 達成(◎) イ・年間2回の研修実施(◎)</p> <p>(4) ア・コロナ禍で制限の厳しい中、それぞれ工夫し、昨年度実施できなかった文化祭、修学旅行等各種行事を実施した(○)。 イ・70.9%(+1.6P) コロナによる影響があった中でも工夫して実施し、肯定的回答率も昨年度と比べ上昇した。(○)</p> <p>(5) ア・11月に実働防災訓練を実施(○) イ・予定通り実施(○)</p>
<p>3 地域としっかり連携して生徒を育てる 学校づくり</p>	<p>(1) 各種地域連携行事に、本校生徒・教職員が今後も継続的に参加する。</p> <p>(2) 本校が中心となった地域連携行事を企画・実施。 ア 近隣諸学校園の児童生徒と本校生徒の交流 イ 近隣諸学校園の教職員と本校教職員の交流</p> <p>(3) 広報体制を確立する。 ア 本校ウェブページの充実。 イ 中学校への広報活動の充実。</p>	<p>(1) ア・だいたう森づくりクラブ(里山ボランティア)、地域教育協議会、ふれ愛教育協議会、中小企業同友会等の交流・協力関係を今後も維持する。 イ・本校生徒と教職員による地域清掃活動を継続して実施する(野崎レポリューション)。</p> <p>(2) ア・近隣諸学校園の児童生徒と本校生徒が交流する行事、部活動、授業等を設定する。 イ・近隣諸学校園の教職員と本校教職員による、合同研修や研究授業等を実施。</p> <p>(3) 本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信する広報体制を確立する。 ア・本校ウェブページの学校ブログ等を定期的に更新することで、最新の情報を生徒、保護者や地域住民に伝える。 イ・中学校への広報活動を充実させることで、本校志願者の確保に努める。</p>	<p>(1) ア・昨年度参加できなかった地域連携行事に、今年度は生徒・教職員が参加できるようにする。 イ・年間5回実施[4回]。</p> <p>(2) ア・本校生徒による出前授業や部活動での中学生との合同練習等を実施し、本校出願者数を昨年度より増加させる。 [未実施]。 イ・年間2回の研修等を実施し、教員の人権意識を高めることはもちろん近隣校との交流も深め、各教員の人権感覚を育てていく。 [近隣高校との合同研修を2回実施]。</p> <p>(3) ア・ブログの更新を平均週4回以上(約200回)行う。[3/17までに313回更新] イ・本校生徒による出身中学校訪問の実施。 [36校] ・本校出願者の増加[189名]</p>	<p>(1) ア・だいたう森づくりクラブ(里山ボランティア)、地域教育協議会、ふれ愛教育協議会、中小企業同友会等一部再開することができた(○) イ・年間1回実施。(一) コロナによる臨時休業による日程変更を余儀なくされたため、1回のみの実施となった。</p> <p>(2) ア [未実施] (一) コロナ禍のため中止 イ・緑風冠高校と合同職員研修を2回実施(○)</p> <p>(3) ア・ブログ更新は12月末/現在370回で、昨年1年間(313回)のペースを大きく超えている。(◎) イ・生徒による出身中学校訪問は40校(昨年36校)。(○) ・コロナ影響で学校説明会は4回予定中3回実施、昨年より1回少なかったため参加人数は若干の減少があったが、参加中学校数は増加し、広報活動としては一定の成果があった。しかし、出願者は130人であり、目標に達しなかった。(△)</p>
<p>4 教職員の働き方改革推進</p>	<p>(1) すべての教職員が担当業務についての必要性と効率化を常に意識する習慣を持つ。</p>	<p>(1) ・管理職、首席、分掌、学年、各種委員会、事務室等の立場から業務の見直しを行う。</p>	<p>(1) ・教員一人平均の月当たり時間外勤務時間を、各自前年度より1時間減らす。[27時間]</p>	<p>(1) ・教員一人平均の1か月あたり時間外勤務時間は、約23.6時間。(○) 新基準 28.6時間</p>